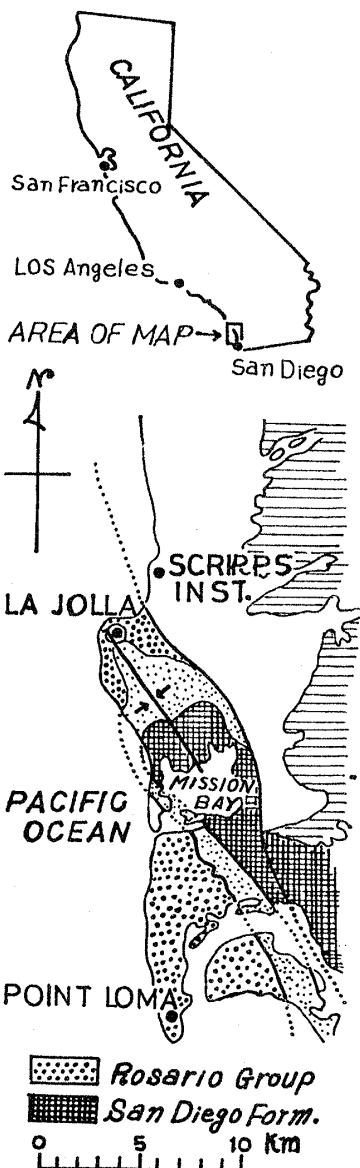


200 南カリフォルニア海岸に発達する上部白亜系の堆積構造の特徴  
と古流系

新井重三 (埼玉大学・教育)

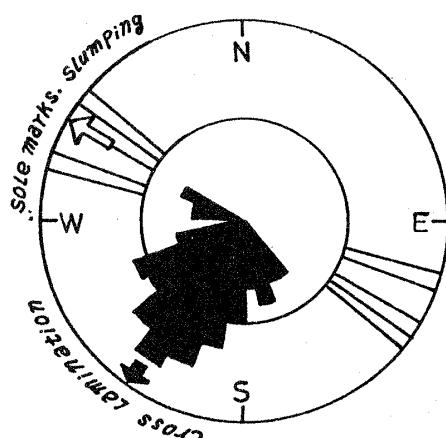
カリフォルニア南部の La Jolla 海岸には上部白亜系に属する Rosario 層群が分布している。中位層準に当る Point Loma 層は花崗質砂岩と暗灰色泥岩の有律互層よりなるタービタイトで重力作用に起因して発生する Slumping, Convolution, Flame, Sole marks 等の著しい堆積構造と。



第1図 La Jolla付近地質図

第2図 強力な流れを示す RIP-UPPED Structure(地層の剥ぎとり構造)ともに、流水によって形成される Ripple marks, Cross lamination 等、形成機構を異にするニ株式の堆積構造が顕著に発達している。

筆者は、上述した成因の異なる Directional structures について記載するとともに古流系解析を行った結果第3図に示したような結果を得た。すなわち、CROSS lamination で代表される contour current は NE → SW であるのに對して、gravity current による Sole marks 等の方向は前者と異なり SE → NW で両者の関係は、ほぼ直交している。



第3図 Contour current と Gravity current の直交を示す Rose diagram.

Point Loma 層を構成する堆積物は本地域北東部の花崗岩地帯より沿岸流等によつて南下し、La Jolla 地域に達した。本地域の不安定な堆積盆地内に Turbidity current が発生し、堆積物は再び方向を変えて NW 方向の海深部に運搬堆積された。なお、この方向が、現生タービタイトで知られる La Jolla 海底三角洲上の谷の方向とよく一致している。